

第42回総会開催 at ワークピア横浜

3月5日、神奈川ネットワーク運動第42回総会を開催し、2017年度の活動方針を決定しました。

- 【基本方針】
1. 市民社会を強くするため多様なNPO・市民事業・社会運動との連携を進め、政策アクションに取組みます
 2. 地域の課題に向き合い解決のための活動を進めます
 3. 2019年統一地方選挙に向けた準備を進めます



▲佐々木ゆみこ代表



▲若林ともこ代表



▲大河原まさこさん
リベラル市民政治研究所代表



▲藤田ほのみさん
生活クラブ神奈川理事長



▲上田祐子さん
NPO法人W.Co協会の副理事長



鎌倉市議選に向け
政策アピール

左：あだちなほ
中：保坂れい子鎌倉市議
右：三宅まり鎌倉市議

朝鮮学校は今年で創立から70年を迎えます。神奈川県下には5校の朝鮮学校があります。ヘイトスピーチ、在日朝鮮学校への高校無償化の適用除外、補助金停止など、子どもたちの生きる権利、学ぶ権利が誤解と偏見や差別によって脅かされています。

今回の交流ツアーは、朝鮮学校を支援する市民が集まり、南武朝鮮初級学校（川崎市高津区）で行われました。授業や保育を参観し、合唱や演奏、舞踊公演、民族遊び等、子ども達の日常にふれることができました。

また、朝鮮大学の李柄輝（リ・ビョンフイ）さんを招いて、在日朝鮮人と朝鮮学校の成り立ちを聴きました。その後、参加者は少人数のグループに分かれて、「差別を乗り越えるために明日からできること」をテーマに意見交換を行いました。

お互いを理解し尊重するためには歴史の経緯を学び、認識することが大切です。この出会いと学びを活かし、地域から共に生きる「社会」を築いていきます。



▲南武朝鮮初級学校

かながわの朝鮮学校交流ツアー2017 出会う学ぶともに in 南武

三浦ゆり子（高津Weネット）

2/18

神奈川ネットは、地域政党です。生活の課題は政治に直結しています。国の政党が、地方の政治までコントロールするのではなく、多様な地域政党が政策を競い住みやすいまちをつくる社会をめざします。



今月の神奈川ネット

- 市民の生活・活動法律相談：3/15、4/19(水)
- 介護保険PJ：3/20(月)
- エネルギーPJ：3/24(金)
- 第1回運営委員会：3/28(火)

編集後記

日本は地震大国、世界の地震の十分の一が日本とその周辺で起きている。実際に熊本をはじめ各地で地震が発生しており、東海・東南海や首都直下地震も懸念される。東日本大震災から早6年。3・11が近づくと報道特集などが組まれるが、日々の生活の中で震災は忘れられがちだ。銀座のビルに震災時の津波の高さを示し、「あの日をお忘れなさい。それが、一番の防災」とする意見広告が掲げられたが、実際の津波の高さが実感でき、リアルに危機感を抱く。日々防災意識をもって生活することが被災につながる。

(C・M)

エネルギー見える化アクション 顔の見える発電所を選ぼう

内川由喜子（厚木市民自治をめざす会）

2/21

神奈川ネットのエネルギープロジェクティブで、世田谷ものづくり学校の中心にある「みんな電力株式会社」を訪ね、次世代エネルギー事業部の竹蓋優貴さんにお話を聞きました。



▲世田谷ものづくり学校

世田谷区がものづくりの拠点にしていくと廃校になった中学校校舎を再生した施設です。みんな電力は、2011年に設立され、「顔の見える発電所」を掲げた事業を進めています。地域にある市民発電所から電気を購入し、契約者は

に、顔の見える発電所を知ることが、選ぶことが必要だと確認しました。



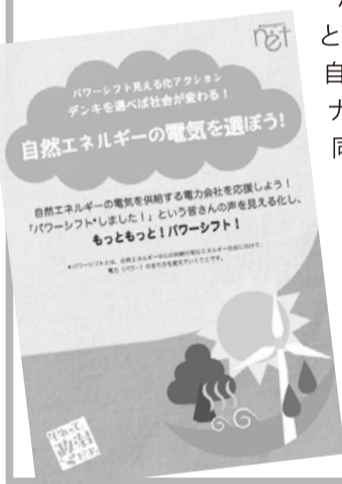
自分が応援したい発電所を選ぶことができます。今年度は神奈川県内の補助金事業で県内に市民発電所を増やし、エネルギーの地産地消の仕組みを作る「神奈川エネルギーマルシェ」を準備しています。

様々な形態で電力小売り事業者が参加している中、私たちは、自然エネルギーを増やす活動を

パワーシフト見える化アクション ステッカー&缶バッジでアピールしよう！

エネルギープロジェクトでは、「エネルギーシフトしました！」という声に見える化するパワーシフトステッカー（マグネットタイプ・シールタイプ）と缶バッジを作成、リーフレットも完成しました。自然エネルギーの電気の共同購入に取組む（株）生活クラブエナジーなどと連携し、脱原発を進めていきます。ぜひ運動に賛同し、お申し込み下さい。

【申込み・問合せ】神奈川ネット事務局 ☎045-651-2011
Email: Kgnet@kgnet.gr.jp



缶バッジ&シール



シール

BDK制作委員会

ドキュメンタリー映画を作ること、伝えること

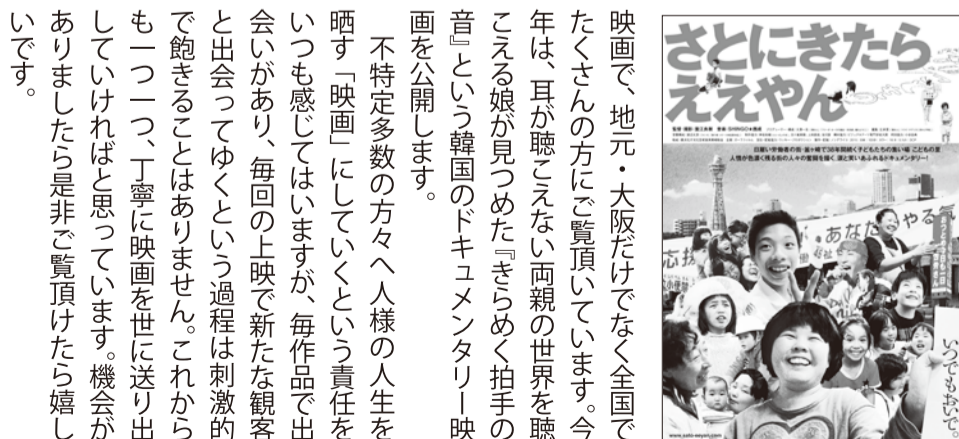
映画プロデューサー 大澤一生（市民社会チャレンジ基金第13期助成団体）



在日クルド難民家族を追ったドキュメンタリー映画『バックドロップ・クルディスタン』を市民社会チャレンジ基金の助成金を頂いて完成公開してから約10年が経ちました。おかげさまで『バックドロップ・クルディスタン』は映画賞を頂いて一般劇場公開を果たし、映画を通して日本の難民行政の現状を広く知って頂く機会を作ることができました。

その後もドキュメンタリー映画のプロデューサーとして、映画を作った劇場公開をしてきました。ドキュメンタリーの多くは偶然の出会いから始まります。作り手が出会った対象者の方々の姿や活動を撮影し、作り手自身も発見しながら段々と映画を形作っていき、そうやって完成した映画は劇場公開することでたくさんの方々に届いていきます。

昨年公開した『さとにきたらええやん』は大阪の釜ヶ崎で約40年間続いている子ども施設「こどもの里」の活動に密着したドキュメンタリー



http://www.sato-eeyan.com/